

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 31年 1月10 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200593		
法人名	森信建設 株式会社		
事業所名	グループホームなでしこ富士見町		
所在地	広島市中区富士見町15-23 (電話) 082-244-3599		
自己評価作成日	平成30年11月21日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200593-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成31年1月8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

施設の運営理念「ゆったり・のんびり・ほがらかに」を前提として、職員の都合を優先せず、利用者本位のサービスを提供するように取り組んでいます。また街中の施設の特性を活かして、とうかさやドリミネーション見学に行ったり、大型スーパー等にも出かける様にしています。尚、家族会が組織され、2ヶ月に1度開催される運営推進会議には、地域包括支援センター職員・民生委員・訪問看護・家族会役員が参加し、活発な意見交換を行っています。食事に関しては、利用者の食事を重視し、専門調理員が食事を提供し、おやつレクを週1回行い、手作り感を重視しています。事業所としては、利用者・家族の要望があれば看取りを行う方針で、今までに看取りの事例があり、看取りに関する研修も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

交通至便な街中にありマンションを改造した複合的施設で、一階の「そとだん館」では地域包括支援センターとの連携で「いきいきサロン」を毎月開催し地域住民との交流を深めている。多世代との関わりや季節の催しに積極的に参加し、事業所内ではおやつレク・焼肉パーティーなど多彩なイベントを企画している。ボール体操や下肢筋力低下防止運動などを取り入れ、利用者の健全な暮らしや生活機能の維持に取り組んでいる。家族会が充実する中、各々が勉強会や防災グッズの整備について運営推進会議で活発に話し合うなど、利用者が生きがいの持てる生活に側面から関与し親密な協力体制を築いている。外部講師による看取り介護研修ほか各種研修で職員のスキルアップを図り、温かみのあるチームケアの向上や職場環境整備に努めている事業所である。

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念「ゆったり、のんびり、ほがらかに」は事業所内に掲示し、毎朝の申し送りで唱和しています。日常の運営に際しても、理念を常に意識して介護業務を行っています。	利用者がなごやかに、生きがいを感じる生活を創造し、安らぎのある住まいを提供する事業所の運営理念のもと、行動指針（七つの約束）を定め職員間で意識統一を図っている。申し送り時などで理念に立ち返り年間目標や個人目標を立て、日々のケアの見直しなどに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎日の散歩では、近隣住民と会話し「地蔵祭り」や「とんど」の町内行事には、利用者が参加し交流しています。又、定期的に母体法人が地域清掃を行い、地域に協力しています。	近隣住民との日頃の挨拶や会話はもとより、地域の季節行事に利用者と共に参加し交流を深めている。法人として地域清掃も行い、祭りやとんどに利用者も参加するなど、地域ぐるみでの繋がりや様々な事業所内イベントに趣向を凝らし共助の関係性を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	1階そとだん館で、毎月「いきいきサロン」を開催しています。そこでは地域のふれあいをテーマとして、転倒予防体操や健康・栄養のお話しなどもしています。又、地域や町内のお祭り・行事に積極的に参加して、地域の一員として交流しています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、家族会役員や家族が毎回多数参加し、地域包括支援センター、地域住民、法人代表者も参加し活発な意見交換を行っています。事故発生状況を説明し、それに対するカンファレンスの内容も報告しています。	毎回家族の参加が多く、行政関係者・民生委員・法人代表者・職員と共に活発な質疑応答が行われている。インシデントや事故報告並びに防止策など議事録に丁寧に記載され、家族他からの提案が反映された会議内容となるよう努め、より良い運営に向け活かされている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	隔月開催の運営推進会議には、国泰寺地域包括支援センター職員の他、中区介護保険課の職員にも開催・出席を呼びかけ、ご都合に応じて参加を得ています。毎回、会議記録をFAX送信し、協議内容を報告しています。	地域包括支援センターと連携し、一階「そとだん館」では毎月「いきいきサロン」を実施して転倒予防体操・健康医療や栄養学について地域住民と共に勉強会を催すなど貢献協力を努めている。普段から相談・手続き・報告や研修案内などで様々な情報交換を重ねている。	

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	当施設では「身体拘束適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアの実施に取り組んでいます。又、身体拘束適正化委員会を設置し運営推進会議をこれに充て会議の中で、身体拘束について報告し協議しています。毎月のフロアーミーティングでは禁止の対象となる具体的な行為等について勉強会を開いています。	法人内研修はもとより身体拘束適正化委員会を設け、運営推進会議でも家族ほかと協議し、適正化に向けた方策を講じている。経過観察・再検討記録に留意し、月毎のフロア会議などでケース検討を重ね、利用者の自由を奪う事無く安全面に配慮した寄り添うケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部の研修には積極的に参加し、その場で学んだことは全体会議やフロアーミーティングの場で報告し、全職員が共有できるようにしています。また、入浴介助の際には入所者の身体に不審な傷・痣等ができていないか必ず確認をして報告しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ご利用者様の中にも成年後見人制度を利用されている方が居られるので、話を聞いたりする機会も増えました。ご家族からの相談時にはこのような制度がある事を説明しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、細かい仕組み、体制、費用などについて書類を読み上げて説明しています。特に健康管理や重篤時の対応などは丁寧に説明し、ご理解・ご納得をいただけるよう心掛けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が来所された際には、意見・要望を聞いています。家族会が組織され敬老会と同時開催される家族会総会には、多数の家族が参加し法人代表者と意見交換し質疑応答を行い、質問に対する回答を後日、利用者家族様へ報告しています。	敬老会と共に開催される家族会総会に多数の家族参加があり、会食後のマジックショーや歌を楽しみながら法人代表者及び職員との忌憚のない意見交換がなされている。常に話しやすい雰囲気づくりや環境整備に努め、改善に向けた迅速な対処を心掛け家族との信頼感のある良好な関係性のもと運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>代表者と管理者はほぼ毎日、協議等行っており、不在時はメールにて24時間意見聴取できる体制をとっています。全体職員会議には、代表者も出席し職員の意見・要望に応じています。</p>	<p>半年毎の全体会議や毎月のフロア会議で、行事や業務改善について話し合い、記録書類の整備や支援方法の見直しに努めている。日頃から法人代表者との連絡・相談も密に行なわれ業務事項など管理者から各職員に行き渡るシステムがあり、系列事業所間の交換研修も行ないチームアプローチに取り組んでいる。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>シフト作成に当たっては、代表者が勤務状況に無理がないかを確認し、調整しています。また職員の処遇改善に向けては、社労士の指導助言などを受けて、常に前向きに実施する事を明示し心がけています。なお年1回、個人面談を行うようにしています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>積極的に外部の研修を案内し、参加を促すとともにシフトの便宜を図っています。個人に帰する資格研修の参加費用については給与との分割相殺など職員の負担の軽減を図っています。又今年から外部講師を施設に派遣し職員全員で研修を行う事もしました。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>関連のグループホームに行き、職場環境やレクの様子などを見学する機会もあり、取入れて行きたい事例などはフロアミーティング等で話し合い実践する事でサービスの質を向上させています。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入所前の事前面談では、ご本人の生活の様子やADLを確認し、要望などの聞き出しに時間をかけています。入所後の数日は帰宅願望など不穏な状態が見られる事から、職員が重点的な見守りを行い、ご本人の要望や相談事聞く機会を積極的にとり安心感を醸成しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている。	事前面談でご家族様が一番気にされている事は「馴染めるだろうか」と言う事が一番多くあるので、サービス利用開始後は家族様との連絡を密にし、ご本人様の様子をお話しし安心して頂ける様心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前面談ではご本人、ご家族、ケアマネに同席して頂き、ご希望などを聞き出しています。サービス利用開始時はフロアミーティングで今の支援が適切に行われているか、他のサービス利用をどの様にするかをケアマネを含め、重点的に話し合っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員はご入所者様の「新しい家族」という立場を認識し、その方のそれまでの生活の仕方を尊重し、何事も共に寄り添いながら行い、日々を過ごすよう心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様が来設した際には、ご本人の様子を伝えたり相談したりしています。家族会を立ち上げているので、家族様には行事への参加を呼びかけ、協力や支援をして頂いております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所者様の生活歴を把握し、意向・要望があれば、今まで利用していた美容院に予約したり、ヘルパーに同行して貰う手続きをしています。知人への手紙のやり取りをされている方には関係が途切れないように、職員がはがきの購入や投函を行っています。	これまでの生活や大切にしてきた繋がりや関係を尊重し、面会や手紙の交換など旧知の関係を紡いでいる。馴染みの理美容の来訪では、おしゃれや整容を楽しんだり、元家族が日本舞踊のボランティアとして訪れ、ふれあいを継続するなど各々の個別ケアに取り入れ支援している。	

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入所時から性別、同じレベルの方、趣味や生活スタイルなどお話しが合う方は席を近づけたり、時には入れ替える等、お互いに刺激を与えるような工夫を行っています。又ユニットを越えてレクを行い、合同での相互関係を構築する様にしています。人間関係に考慮して部屋の移動など了解を得て行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなった方のご家族様が訪問して下さったり、他の施設へ変わられたご家族様からは、現在の様子などお手紙を頂いたりしています。行事のボランティアで、お餅つきのお手伝い・舞踊などを披露して下さる事もあります。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話から把握した利用者様の思いや希望を、職員がケアマネに伝え、ケアプランに取り入れて貰っています。現在では「もっと運動がしたい」と言う要望が多く、個別に対応する事が困難であったため、月2回、スポーツトレーナーの方に来て頂き、下肢筋力低下防止の運動を行っています。	家族会との親身になった相互関係のもと日々の活性化を図り、利用者に合わせてペース配分での活動や軽度の体操を取り入れるなど、各々の思いや意向に沿った支援に努めている。女性専用フィットネスに通いたい思いに応えケアプランに組み込み支援している事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所者ご本人の、現在・過去の思いや暮らし方等をお聞きし、我々で対応できる事は積極的に取り組んでいます。ご家族様から情報を得てケアに繋げ、アセスメントを行い、カンファレンスで検討をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	事前面談では、これまでの住まいを訪問し、日常のADLを確認するとともに、これまでの介護サービスでの状況も観察させて頂いています。入所後は見守りや声掛けなどでご本人の要望等をお聞きし、出来る事を職員と一緒にし、有する力の維持に努めるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者毎の担当者はモニタリングを行い、ケアマネジャーに提出しています。ケアマネジャーはケアプランを作成し家族と面談し要望を把握します。ケアマネジャー・担当者・看護師・管理者でケアカンファレンスを行い、プランの見直しを行っています。</p>	<p>担当スタッフが知り得た情報をもとに、本人・家族・医療関係者の意見を加味しつつ生活歴も紐解きながらニーズに沿った介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行ない、利用者が生き生きと暮らせる要素を増やし本人の能力を活かしたプランとなるよう見直しを重ねている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護記録・個人記録は日勤・夜勤者が記入し、その他の職員は出勤時に記録を確認してから業務に入るようにしています。特記事項等は、朝夕の申し送り情報で共有しています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人や家族の要望を担当者会議で把握し、どのようなサービスが提供出来るかフロアーミーティング等で話し合い、家族の状況が困難な場合、管理者や職員が対応するようにしています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内の行事に参加したり、毎日の散歩等で地域の方と顔見知りになり声を掛けて頂くようになりました。グループホームにも野菜を届けて下さったりしています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所時に、利用者・ご家族の要望でかかりつけ医を決めています。協力医は定期的な往診と24時間オンコール体制を取っており、利用者の健康状態を把握しています。また看護師は週2回の訪問で協力医と同様24時間オンコール体制で利用者に対応しています。</p>	<p>日々のバイタルチェックや服薬管理をはじめ、水分補給・室温湿度調整に留意し感染症予防に取り組んでいる。定期的な内科・歯科・皮膚科の訪問診療や訪問看護により利用者の健康管理を行なっている。通院を要する場合や入退院時の支援にも対応し、緊急時には迅速な対処に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師は週2回の定期訪問ですが、それ以外にも常に連絡が取れる体制になっており、休日・夜間でも緊急の対応を行っています。日常はかかりつけ医との連絡を担い、十分に相談しながら日常の健康医療の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した場合、常に状態を把握し、できるだけ早期に退院・再入居できるように努めています。また医療行為が必要になった場合は、かかりつけ医に相談し、他の病院の紹介なども行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に、重度化への指針や緊急時の体制などについて入念にお話しさせていただいています。状態に変化があった場合には、かかりつけ医・看護師・管理者とご家族で話し合いを行い、同意書等も頂いています。	終末期に向けた指針があり、重度化した場合その都度家族他とよく話し合い、合意のうえ各々の方向性を見極め、医療も含めたチームケアに取り組んでいる。外部講師による看取り介護研修で、新人職員の育成や援助者としての心構えなど、寄り添うケアへの意識付けに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時などは、運営マニュアルに沿って、連絡網で即時情報が流れるよう体制をとっています。これまで発生した事例をもとに、再度当日の行動など関係者で振り返り、改善策についての意見交換と研修をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、消防署立会いの下に避難訓練(日中・夜間を想定)を行い、ご利用者も参加したり、介護度の高い利用者の避難方法を確認しています。尚、運営推進会議を利用して、災害時の備蓄購入等も協力して頂いています。	消防署員立ち会いのもと、夜間想定を含む様々な災害時へ備えた対策や、利用者も交えた避難訓練を実施している。家族や近隣住民の協力を得ながら、より一層の安全確保に努め、水・簡易食・救援備品などのストックや防災グッズの整備など日頃から減災意識を高めている。	

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者への日常の言葉遣いに関しては常に注意が必要で、何気ない声掛けで不穏になられたり、介護拒否する場面などに遭遇します。今年は講師を派遣し職員全員で「接遇とマナー」研修を行い、職員一人一人の思いをレポートに書き提出して貰いました。	日常サイクルの中でスピーチロックを避け、個々の生活意欲や意思決定につながるような声掛けの工夫に努めている。研修やスタッフ会議を通じ、利用者のライフスタイル・メモリアルストーリーを把握し人格を損ねない接遇や礼節をわきまえたケアの向上に職員間で意識を深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の要望や思いなど、素直に耳を傾け、自己決定できるよう対応しています。職員で対応出来ない事があれば、管理者や代表者と話し合い、納得を得られるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	先ずはご入所者のその日の体調等を考慮し、その方の思いや要望をお聞きして、最適な過ごし方が出来る様に心がけています。当日入浴を希望されない方は翌日にしたり、食欲が無い場合や一斉での食事を希望されない時は、後でお一人でも食べられるよう工夫しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝ご本人の好みの洋服に着替えていただきます。化粧品もご本人、ご家族の希望があればつけて頂いています。定期的に理美容サービス（ヘルパー有資格者）に来て頂き、ご本人の希望に合わせてカット・カラー・パーマをお願いしています。また外部の行きつけの美容院を希望された際はご家族と行かれています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	専門調理員が、利用者の方の要望を反映した献立を作成し、食事を提供しています。週に1回「おやつレク」を開催し手作りのアップルパイや季節の果物を使用したケーキ等を作って喜んで頂いています。外食行事では家族も一緒に「回転寿司」などに行っています。	旬の食材や栄養価を考慮しつつ、個々の嗜好やリクエストも取り入れたメニューでの調理専門スタッフ手作りによる提供で、職員も一緒に食事をしている。クリスマスには歌や職員のフラダンス・手作りケーキを楽しむ食レクや、毎週のおやつレクを企画し「美味しく・楽しく」共に味わう大切な時間となっている。	

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事・水分等の摂取量は個別に記録し、常に推移を見ながら工夫と配慮をしています。また入所者の様子(好み・硬さ・味等)特記があれば献立表に職員が記入したり、専門の調理員に相談したりして、今後の食事作りに役立てるようにしています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアを全員行っています。自分でされた後は、歯間ブラシ、デンタルフロスを使用し職員が口腔内を確認しています。週1回の歯科医院の往診時には入所者ひとり一人歯科衛生士による口腔ケア及び指導を受けています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>利用者の排泄状況を詳しく記録し、それにより利用者の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っています。トイレでの排泄を支援している為、テープ式のオムツは使用していません。</p>	<p>ほとんどの利用者がリハビリパンツ使用で、排泄表を活用しパターンやタイミングを見計らいトイレ誘導をしている。自然な気持ちの良い排泄を心がけ、こまめな水分補給に加え、下肢筋力低下防止の体操を行なうなど、適切なパッド対応と共に自立に向けた支援に取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>処方された便秘薬に頼ることなく極力自然排泄が進むよう寒天ゼリーを昼食時に、また飲み物に寒天粉を入れるなど工夫をしています。その方にあった適度な運動や散歩を毎日の日課に取り入れています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>週2回(夏場は3回)の入浴を行っています。その日の体調や入浴拒否する利用者には、入浴を強制せず時間を置いて入浴を促すようにしています。利用者の入浴後はバスタブを清掃し湯を入れ替えています。</p>	<p>午前中の中の入浴を基本としているが、その日の体調や要望に合わせて午後からでも入浴可能で、柔軟な対応での支援に取り組んでいる。声掛けの工夫や個々の様子を観ながらリラックスできるように努め、利用者ごとに湯舟のお湯を入れ替えて入浴剤もその都度入れるなど衛生面に配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>天気の良い日には寝具類の天日干し や風通しなどを行い、清潔な安眠 環境作りを心がけています。日中 のレクや軽い運動・日向ぼっこを する事で、夜間しっかり眠り、昼 夜逆転をしないように心がけてい ます。処方による睡眠導入剤の服 用なども日々の状況によって対 応しています。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている。</p>	<p>利用者ごとの処方されている服薬 情報をまとめ、かかりつけ医・看 護師・職員が確認できるよう工夫 配慮しています。決められた時間 ・量・状態等を確認し、服薬支 援をしています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援を している。</p>	<p>ひとり一人の好みや得意分野な ど、日々の関わりの中から引き出 し、取り組みが可能なものは検 討し導入しています。家族会によ るアンケートも参考にしています。 固定的な役割分担などは決めず 、その日の気分・体調に合わせて 無理のないよう家事の手伝い・散 歩やボランティアによる催し物に 参加しています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるよう に支援している。</p>	<p>天気が悪い日を除いてほぼ毎日、 散歩に出かけ、介護度が高い利 用者の方も出来るだけ散歩する ようにしています。日々退屈しな い様に外出の機会を多く設け、 近隣のスーパーへの買物や食 事、地域の人が集う日曜市に出 かけたりしています。</p>	<p>日々の散歩や買い物で外気浴や 気分転換を心がけている。四季 折々の花を愛でたり、冬には恒 例のドリミネーション見学や白 神神社への初詣ほか、時には専 用福祉車両でのドライブなど職 員と共に外出する機会を設けて いる。カープの優勝パレード見 物も楽しみなひと時として喜ば れている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金の 所持したり使えるように支援して いる。</p>	<p>入所時に金銭管理の説明をご家 族を交えて行っています。金銭 管理規定に沿って金庫での預か りと支出記録を行い、毎月の請 求時には報告をしています。 ご希望により現金が必要な時 には、職員立会いで買物や飲食 などをして頂いています。</p>		

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取り扱いについては、入所時にご家族と話し合いを行っています。必要であれば携帯電話の所持もされます。 手紙の受発信は原則自由ですが、ご家族様のご意向に沿った相手先に限定しています。事前に開封などは行っていません。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	事業所の清掃マニュアルに沿って、毎日担当職員が掃除を行い、トイレ・浴室・リビングを清潔に保つよう取り組んでいます。 ベランダに花を植え、天候が良い時期にはベランダのベンチに座りお茶を楽しまれています。	マンション仕様の段差もリハビリに活かしアットホームな雰囲気の共用空間で、リビングには季節を感じる手作り作品を掲示しソファでもゆっくり寛げるよう配慮している。ルーフバルコニーでは日向ぼっこやティータイムをベンチで楽しみ、園芸担当職員と花の手入れを一緒に行なうなど開放的なスペースである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファ、3階バルコニーにはベンチを置いて自由に座って頂き、ご入所者同士の交流を深めて貰っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所前に居室を見学して頂き、それまでの日々の生活状況と違和感の無いように、使い慣れた家具・椅子・テレビなどを持ち込んで頂いたりしています。又、家族写真や仏壇などを持ち込み、居心地よく過ごせる様に配慮しています。	一人ひとりが落ち着いて過ごせるよう家族写真や愛着のある品々を飾り、趣味趣向や生活スタイルに沿ったスペースづくりを心がけている。掃除や換気に努め、清潔で安全な居室となるように職員間で留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設の随所にスロープや手摺を設けています。一部のトイレは下肢筋力低下予防に役立つよう、段差を残していません。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念「ゆったり、のんびり、ほがらかに」は事業所内に掲示し、毎朝の申し送りで唱和しています。日常の運営に際しても、理念を常に意識して介護業務を行っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎日の散歩では、近隣住民と会話し「地蔵祭り」や「とんど」の町内行事には、利用者が参加し交流しています。又、定期的に母体法人が地域清掃を行い、地域に協力しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	1回そとだん館で、毎月「いきいきサロン」を開催しています。そこでは地域のふれあいをテーマとして、転倒予防体操や健康・栄養のお話しなどもしています。又、地域や町内のお祭り・行事に積極的に参加して、地域の一員として交流しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、家族会役員や家族が毎回多数参加し、地域包括支援センター、地域住民、法人代表者も参加し活発な意見交換を行っています。事故発生状況を説明し、それに対するカンファレンスの内容も報告しています。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	隔月開催の運営推進会議には、国泰寺地域包括支援センター職員の他、中区介護保険課の職員にも開催・出席を呼びかけ、ご都合に応じて参加を得ています。毎回、会議記録をFAX送信し、協議内容を報告しています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	当施設では「身体拘束適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアの実地に取り組んでいます。又、身体拘束適正化委員会を設置し運営推進会議をこれに充て会議の中で、身体拘束について報告し協議しています。毎月のフロアーミーティングでは禁止の対象となる具体的な行為等について勉強会を開いています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部の研修には積極的に参加し、その場で学んだことは全体会議やフロアーミーティングの場で報告し、全職員が共有できるようにしています。また、入浴介助の際には入所者の身体に不審な傷・痣等ができていないか必ず確認をして報告しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ご利用者様の中にも成年後見人制度を利用されている方が居られるので、話を聞いたりする機会も増えました。ご家族からの相談時にはこのような制度がある事を説明しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、細かい仕組み、体制、費用などについて書類を読み上げて説明しています。特に健康管理や重篤時の対応などは丁寧に説明し、ご理解・ご納得をいただけるよう心掛けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が来所された際には、意見・要望を聞いています。家族会が組織され敬老会と同時開催される家族会総会には、多数の家族が参加し法人代表者と意見交換し質疑応答を行い、質問に対する回答を後日、利用者家族様へ報告しています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者と管理者はほぼ毎日、協議等行っており、不在時はメールにて24時間意見聴取できる体制をとっています。全体職員会議には、代表者も出席し職員の意見・要望に応じています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	シフト作成に当たっては、代表者が勤務状況に無理がないかを確認し、調整しています。また職員の処遇改善に向けては、社労士の指導助言などを受けて、常に前向きに実施する事を明示し心がけています。なお年1回、個人面談を行うようにしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	積極的に外部の研修を案内し、参加を促すとともにシフトの便宜を図っています。個人に帰する資格研修の参加費用については給与との分割相殺など職員の負担の軽減を図っています。又今年から外部講師を施設に派遣し職員全員で研修を行う事もしました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	関連のグループホームに行き、職場環境やレクの様子などを見学する機会もあり、取入れて行きたい事例などはフロアーミーティング等で話し合い実践する事でサービスの質を向上させています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の事前面談では、ご本人の生活の様子やADLを確認し、要望などの聞き出しに時間をかけています。入所後の数日は帰宅願望など不穏な状態が見られる事から、職員が重点的な見守りを行い、ご本人の要望や相談事を聞く機会を積極的にとり安心感を醸成しています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。	事前面談でご家族様が一番気にされている事は「馴染めるだろうか」と言う事が一番多くあるので、サービス利用開始後は家族様との連絡を密にし、ご本人様の様子をお話しし安心して頂ける様心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前面談ではご本人、ご家族、ケアマネに同席して頂き、ご希望などを聞き出しています。サービス利用開始時はフロアミーティングで今の支援が適切に行われているか、他のサービス利用をどの様にするかをケアマネを含め、重点的に話し合っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員はご入所者様の「新しい家族」という立場を認識し、その方のそれまでの生活の仕方を尊重し、何事も共に寄り添いながら行い、日々を過ごすよう心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様が来設した際には、ご本人の様子を伝えたり相談したりしています。家族会を立ち上げているので、家族様には行事への参加を呼びかけ、協力や支援をして頂いております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所者様の生活歴を把握し、意向・要望があれば、今まで利用していた美容院に予約したり、ヘルパーに同行して貰う手続きをしています。知人への手紙のやり取りをされている方には関係が途切れないように、職員がはがきの購入や投函を行っています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入所時から性別、同じレベルの方、趣味や生活スタイルなどお話しが合う方は席を近づけたり、時には入れ替える等、お互いに刺激を与えるような工夫を行っています。又ユニットを越えてレクを行い、合同での相互関係を構築する様にしています。人間関係に考慮して部屋の移動など了解を得て行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなった方のご家族様が訪問して下さったり、他の施設へ変わられたご家族様からは、現在の様子などお手紙を頂いたりしています。行事のボランティアで、お餅つきのお手伝い・舞踊などを披露して下さる事もあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話から把握した利用者様の思いや希望を、職員がケアマネに伝え、ケアプランに取り入れて貰っています。現在では「もっと運動がしたい」と言う要望が多く、個別に対応する事が困難であったため、月2回、スポーツトレーナーの方に来て頂き、下肢筋力低下防止の運動を行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所者ご本人の、現在・過去の思いや暮らし方等をお聞きし、我々で対応できる事は積極的に取り組んでいます。ご家族様から情報を得てケアに繋げ、アセスメントを行い、カンファレンスで検討をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	事前面談では、これまでの住まいを訪問し、日常のADLを確認するとともに、これまでの介護サービスでの状況も観察させて頂いています。入所後は見守りや声掛けなどでご本人の要望等をお聞きし、出来る事を職員と一緒にし、有する力の維持に努めるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者毎の担当者はモニタリングを行い、ケアマネジャーに提出しています。ケアマネジャーはケアプランを作成し家族と面談し要望を把握します。ケアマネジャー・担当者・看護師・管理者でケアカンファレンスを行い、プランの見直しを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録・個人記録は日勤・夜勤者が記入し、その他の職員は出勤時に記録を確認してから業務に入るようになっています。特記事項等は、朝夕の申し送り情報で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の要望を担当者会議で把握し、どのようなサービスが提供出来るかフロアーミーティング等で話し合い、家族の状況が困難な場合、管理者や職員が対応するようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内の行事に参加したり、毎日の散歩等で地域の方と顔見知りになり声を掛けて頂くようになりました。グループホームにも野菜を届けて下さったりしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所時に、利用者・ご家族の要望でかかりつけ医を決めています。協力医は定期的な往診と24時間オンコール体制を取っており、利用者の健康状態を把握しています。また看護師は週2回の訪問で協力医と同様24時間オンコール体制で利用者に対応しています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師は週2回の定期訪問ですが、それ以外にも常に連絡が取れる体制になっており、休日・夜間でも緊急の対応を行っています。日常はかかりつけ医との連絡を担い、十分に相談しながら日常の健康医療の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した場合、常に状態を把握し、できるだけ早期に退院・再入居できるように努めています。また医療行為が必要になった場合は、かかりつけ医に相談し、他の病院の紹介なども行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に、重度化への指針や緊急時の体制などについて入念にお話しさせていただいています。状態に変化があった場合には、かかりつけ医・看護師・管理者とご家族で話し合いを行い、同意書等も頂いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時などは、運営マニュアルに沿って、連絡網で即時情報が流れるよう体制をとっています。これまで発生した事例をもとに、再度当日の行動など関係者で振り返り、改善策についての意見交換と研修をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、消防署立会いの下に避難訓練(日中・夜間を想定)を行い、ご利用者も参加したり、介護度の高い利用者の避難方法を確認しています。尚、運営推進会議を利用して、災害時の備蓄購入等も協力して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者への日常の言葉遣いに関しては常に注意が必要で、何気ない声掛けで不穏になられたり、介護拒否する場面などに遭遇します。今年は講師を派遣し職員全員で「接遇とマナー」研修を行い、職員一人一人の思いをレポートに書き提出して貰いました。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の要望や思いなど、素直に耳を傾け、自己決定できるよう対応しています。職員で対応出来ない事があれば、管理者や代表者と話し合い、納得を得られるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	先ずはご入所者のその日の体調等を考慮し、その方の思いや要望をお聞きして、最適な過ごし方が出来る様に心がけています。当日入浴を希望されない方は翌日にしたり、食欲が無い場合や一斉での食事を希望されない時は、後でお一人でも食べられるよう工夫しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝ご本人の好みの洋服に着替えていただきます。化粧品もご本人、ご家族の希望があればつけて頂いています。定期的に理美容サービス（ヘルパー有資格者）に来て頂き、ご本人の希望に合わせてカット・カラー・パーマをお願いしています。また外部の行きつけの美容院を希望された際はご家族と行かれています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	専門調理員が、利用者の方の要望を反映した献立を作成し、食事を提供しています。週に1回「おやつレク」を開催し手作りのアップルパイや季節の果物を使用したケーキ等を作って喜んで頂いています。外食行事では家族も一緒に「回転寿司」などに行っています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分等の摂取量は個別に記録し、常に推移を見ながら工夫と配慮をしています。また入所者の様子(好み・硬さ・味等)特記があれば献立表に職員が記入したり、専門の調理員に相談したりして、今後の食事作りに役立てるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを全員行っています。自分でされた後は、歯間ブラシ、デンタルフロスを使用し職員が口腔内を確認しています。週1回の歯科医院の往診時には入所者ひとり一人歯科衛生士による口腔ケア及び指導を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の排泄状況を詳しく記録し、それにより利用者の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っています。トイレでの排泄を支援している為、テープ式のオムツは使用していません。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	処方された便秘薬に頼ることなく極力自然排泄が進むよう寒天ゼリーを昼食時に、また飲み物に寒天粉を入れるなど工夫をしています。その方にあった適度な運動や散歩を毎日の日課に取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回(夏場は3回)の入浴を行っています。その日の体調や入浴拒否する利用者には、入浴を強制せず時間を置いて入浴を促すようにしています。利用者の入浴後はバスタブを清掃し湯を入れ替えています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	天気の良い日には寝具類の天日干し や風通しなどを行い、清潔な安眠 環境作りを心がけています。日中 のレクや軽い運動・日向ぼっこを する事で、夜間しっかり眠り、昼 夜逆転をしないように心がけてい ます。処方による睡眠導入剤の服 用なども日々の状況によって対 応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている。	利用者ごとの処方されている服薬 情報をまとめ、かかりつけ医・看 護師・職員が確認できるよう工夫 配慮しています。決められた時間 ・量・状態等を確認し、服薬支 援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援を している。	ひとり一人の好みや得意分野など 、日々の関わりの中から引き出し 、取り組みが可能なものは検討し 導入しています。家族会によるア ンケートも参考にしています。固 定的な役割分担などは決めず、そ の日の気分・体調に合わせて無 理のないよう家事の手伝い・散 歩やボランティアによる催し物に 参加しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるよう に支援している。	天気が悪い日を除いてほぼ毎日、 散歩に出かけ、介護度が高い利 用者の方も出来るだけ散歩する ようにしています。日々退屈しな い様に外出の機会を多く設け、 近隣のスーパーへの買物や食事 、地域の人が集う日曜市に出か けたりしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金の 所持し使いえるように支援してい る。	入所時に金銭管理の説明をご家 族を交えて行っています。金銭管 理規定に沿って金庫での預かりと 支出記録を行い、毎月の請求時 には報告をしています。ご希望 により現金が必要な時には、職 員立会いで買物や飲食などをして 頂いています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取り扱いについては、入所時にご家族と話し合いを行っています。必要であれば携帯電話の所持もされます。 手紙の受発信は原則自由ですが、ご家族様のご意向に沿った相手先に限定しています。事前に開封などは行っていません。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	事業所の清掃マニュアルに沿って、毎日担当職員が掃除を行い、トイレ・浴室・リビングを清潔に保つよう取り組んでいます。 ベランダに花を植え、天候が良い時期にはベランダのベンチに座りお茶を楽しまれています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファ、3階バルコニーにはベンチを置いて自由に座って頂き、ご入所者同士の交流を深めて貰っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所前に居室を見学して頂き、それまでの日々の生活状況と違和感の無いように、使い慣れた家具・椅子・テレビなどを持ち込んで頂いたりしています。又、家族写真や仏壇などを持ち込み、居心地よく過ごせる様に配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設の随所にスロープや手摺を設けています。一部のトイレは下肢筋力低下予防に役立つよう、段差を残していません。		

V アウトカム項目(3階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

V アウトカム項目(4階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名グループホームなでしこ富士見町

作成日 平成31年2月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	消防担当者退職の為、避難訓練が実施出来ない	早急に消防担当者を決め防火管理講習を受ける。	避難マニュアルを作成しホーム内での避難訓練を実施する。	半年
2	38	職員の都合を優先しがちになり、利用者ひとり一人のペースや希望が叶えられていない	毎日の生活を、利用者の方と相談しながら行う。	・一日の過ごし方を見直す。 ・職員のペースで動かない。	1年
3	27	介護記録・個人記録の書き方	ケアプランに沿った介護記録の書き方・利用者の方の言葉が記録に残る様に工夫する。	介護記録・個人記録の重要性を認識する。	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。